

英 語 科

英語学習上のつまずきの分析とその効果的指導の工夫

加藤 剛 高橋 恵売 倉田 有邦
宮田 学 山田 雄一

〔I〕 文構造の理解と内容把握

— and を中心に —

1 はじめに

高校段階における英語，特に Reader 分野において，構文の大わくをつかむことが読解力へとつながる。ところが，生徒は高校英語に新しく接する時，中学とは違った長い複雑な文に出くわし，立体的に文全体を見渡すことができずに，前からの平面的な読解になったり，あるいは構文全体を崩してしまって全く意味をつかめないでいる場合も多い。ある程度高校英語を学んだものなら，短かいまとまりのある文，例えば文法の教科書に出てくるような例文ならば，構文的理解ができるのであるが，Readerの教科書に複雑な文が出てくるとやはり構文をつかみきれないでいる。

文を複雑にしている要素は多くあろうが，まず第一に，“接続詞が文や句や単語を結ぶことによって，文全体を長く複雑にしている”ということが考えられる。長く複雑な文も，単文そして句や単語の集まりであるから，接続詞がどういう働きをしているかがわかれば，句や単語の意味，用法を別にして，構文の大わくを理解できるはずである。

そこで我々は等位接続詞に着目して，文全体を立体的に見渡す指導法を工夫できたら，と考えたのである。特に and については，中学一年から何度も登場して生徒は最も簡単な単語と受けとっている。Readerの授業においても，訳読の上では「そして」とか「～と」としか受けとめず，又，全く訳されない場合も多いので，その働きを考えてみる場合は非常に少ない。働きを正

確に理解していなくても，訳読上何となく意味が通ってしまうことも多い。しかし一方，そのために構文全体が崩れたり，全く違った内容をうけとってしまう場合も多く，読解上のつまずきとなっている。もし and の働き一つでも正確に読みとる力をつけてゆくことができれば，文全体を正確に読みとるのに，大いに助けになると考えるのである。

2 経 過

(I) 中高各教科書からの等位接続詞 (and, but, or) の含まれる文の抜き出しと，カードによる整理とその例文の類型化。

我々はまず，現在使用している教科書* から and の含まれている文をカードにすべて抜き出した。(高校教科書においては，何度も出てくるありきたりの用法のものはカットした。)次に出そろったカードの例文を項目別に分類した。その項目とは，

- ① 名詞と名詞を結んでいるもの (N)
- ② 動詞と動詞を結んでいるもの (V)
- ③ 形容詞と形容詞を結んでいるもの (A)
- ④ 副詞と副詞を結んでいるもの (Ad)
- ⑤ 前置詞と前置詞を結んでいるもの (P)
- ⑥ 文と文を結んでいるもの (B)

の6つであり，それをさらに次のように分類した。

- ① 名詞と名詞を結んでいるもの N
ア. 結ばれている名詞に修飾がある場合，その位置

によって次のようにわけ ${}^a N_1 d$ のような記号をつけた。

a N_1 b and c N_2 d

例えば,

He was a very good actor and a friend of the

great novelist, Charles Dickens.

ならば, ${}^a N_1 d$ である。

イ. 動名詞と動名詞を結んでいるもの Vg

ウ. 名詞節と名詞節を結んでいるもの Ncl

* 中学 New Horizon I~III (東京書籍)

高校 1年 Unicorn I (文英堂)

2年 Unicorn II (文英堂)

3年 New Horizon III (東京書籍)

New Guide (Grammar) (東京書籍)

② 動詞と動詞を結んでいるもの V

ア. 述語動詞と述語動詞を結んでいる場合 V

イ. 助動詞の後, 原形と原形を結んでいるもの

(can, may, must, will, etc. の後) Vaux 1

ウ. 受動態, 進行形, 完了形など, be 動詞や have

の後の分詞と分詞を結んでいるもの Vaux 2

エ. 不定詞と不定詞を結んでいるもの Vi

オ. 分詞と分詞を結んでいるもの Vp

(カ. 動名詞と動名詞を結んでいるもの Vg)

③ 形容詞と形容詞を結んでいるもの A

形容詞句と形容詞句を結んでいるもの Aph

(前置詞で導かれる形容詞句のみ)

形容詞節と形容詞節を結んでいるもの Acl

④ 副詞と副詞を結んでいるもの Ad

副詞句と副詞句を結んでいるもの Adph

(前置詞で導かれる副詞句のみ)

副詞節と副詞節を結んでいるもの Adcl

しかし③④は, それにあてはまらないもの(例えば, 副詞と副詞句を結んでいるもの)もあるので, 2回目の分類としてそのタイプ別に分類した。そのタイプ別分類のすべての例文から, 中学校程度のやさしいものを MODEL として, 例文もやさしいものから難しいものへと並ぶように考えて4つか5つに精選し, "AND" 指導用例文集を作成した。これを以後 and の系統的指導のマニュアルとして活用したいと考えている。(ここに例文集の概要を参考に示す。紙面の都合により, 例文はカットし MODEL 例文だけをのせておく)

(II) THE USE OF "AND" and THE BETTER UNDERSTANDING OF SENTENCE STRUCTURE

-TYPE N (Noun)

I. $N_1 + \text{and} + N_2$ (名詞+名詞)

a $N_1 + \text{and} + N_2$ が主語になっているもの

Mike and Tom are good friends.

There are two cups and three glasses on the table.

b $N_1 + \text{and} + N_2$ が補語になっているもの

Dr. Yukawa was a great scientist and good writer.

c $N_1 + \text{and} + N_2$ が動詞の目的語になっているもの

I met Mike and Tom last Sunday.

I will show you all my pictures and stamps.

d $N_1 + \text{and} + N_2$ が前置詞の目的語になっているもの

Mike is interested in baseball and tennis.

I saw a girl with a brown hair and blue eyes.

II. $Vg_1 + \text{and} + Vg_2$ (動名詞+動名詞)

Mike is fond of listening to classical records and collecting old coins.

III. $Ncl_1 + \text{and} + Ncl_2$ (名詞節+名詞節)

He said that the time was up and that we had to stop writing.

She asked what my name was and where I lived.

-TYPE V (Verb)

I. $S + V_1 + \text{and} + V_2$ (述語動詞+述語動詞)

Tom sits under a tree and begins to eat the apple.

We went to see my grandfather and had dinner with him.

II. $S + \text{aux} + V_1 + \text{and} + V_2$

a aux can, may, must, will, etc. のとき

You can live and work in the town.

He'll put you in the cart and take you to the market to sell your skin.

b aux be, have, etc. のとき

George Gershwin was born and brought up in New York City.

He was waving his arms and shouting something.

III. $Vi_1 + \text{and} + Vi_2$ (不定詞+不定詞)

He tried to go and work there.

IV. $Vp_1 + \text{and} + Vp_2$ (分詞+分詞)

I saw the fish gathering around me and jumping.

-TYPE A (Adjective)

I. a $A_1 + \text{and} + A_2 + N$

Portia was a beautiful and clever young woman.

B. 次の文を日本語に正しく直しなさい。

1. He wanted to go to America and study English.
2. He has many friends to help him and few people to *worry about.
*worry about 悩みの種となる, 思い悩む
3. Nobody was interested in art and the works of *Greeks and *Romans remained under the ruins of their cities.
*Greeks ギリシャ人 *Romans ローマ人
4. I thought perhaps he was a little sick and after giving him the *capsules at eleven o'clock I went out for a while.
*capsules カプセルに入った薬
5. He is interested in history, and his brother, too.
6. Men have left their business and their families and homes and gone to the West *searching for gold and to become *millionaires.
*search for ~ をさがす *millionaire 百万長者
7. Many *valuable stones are found in and around the village and *elsewhere in the country.
*valuable 貴重な *elsewhere どこか他の場所で

このテストを、高一生徒 133 名に、50分間にてテストを実施。採点の後、問題 A に関しては 3 クラス分 133 名を分析、検討。問題 B に関しては 1 クラス分 44 名を分析、検討した。その後、ある程度英語の力のある生徒で誤答を出したものの 40 人程を集め、一人一人にどうしてその解答を出すに至ったかを面接して聞き、又、同時に最も誤答の多かった A の 8 に関しては、その誤答者のうち 10 名に対して、問題文の語順を変えて再テストを行なった。

(IV) and の理解度テストの分析結果

- A- 1 He said he was hungry asked me to give him something to eat. (V)
- ^{4(a)} ¹²⁴ ³
^{2(b)}

正答率 93.2%

誤答例 (a) 単純に文と文の切れめだと思った。(生徒は文と文をつなぐ and をかなり強く意識している) ①

(b) 意味をとらずに形だけを見てしまった。②

(to give him something + to eat だと思った)

2. Some people may have a tent go camping. (Vaux 1)
- ¹ ² ¹²⁸ ²

正答率 96.2%

3. He was run over by a car carried to the hospital. (Vaux 2)
- ¹ ¹³²

pital. (Vaux 2)
正答率 99.2%

4. We saw some small children playing with a cat laughing merrily. (Vp)
- ^{1(a)} ^{1(b)} ^{2(c)} ¹ ²
¹²⁰ ^{6(d)}

正答率 90.2%

誤答例 (a) 単純に文と文の切れめだと思った。①

(b) 形容詞+形容詞と形を重視した。②

(c) We saw some small children and played with.... と分詞を無視して述語動詞のように考えた。③

(d) 「小さな小供が猫と笑ってゆかいに遊んでいるのを見た」と訳し、and の入れる場所に困り、merrily の単語の意味が不鮮明なためここに入れた。③④ 「楽しく笑っている猫と遊んでいる供たち」と考え、入れる場所に困りここに入れた。③④

5. The old man told us about his big boat strange adventures from Spain to Africa. (N)
- ¹ ¹¹⁷
^{14(a)} ¹

正答率 88%

誤答例 (a) 1. adventures の意味が不鮮明で動詞だと考え、strange は後ろから boat を修飾させた。(told + adventures だと考えた。)(③文を切って述語動詞にしてしまう。③単語の意味 ③後置修飾の意識のしすぎ……中 3 段階で徹底的に後置修飾を教わる)

2. strange を名詞だと考えた。(strange + adventures) ③

6. Mike is fond of listening to classical records collecting old coins. (Vg)
- ¹
¹³¹ ¹

正答率 98.5%

7. Many people are trying to find out what Mars is like how we can live there. (Ncl)
- ¹ ^{3(b)} ¹⁰² ^{6(c)}

正答率 75.2%

誤答例 (a) 文の意味がよくわからず、そこが文の切れ目だと思った。①

(b) 「火星が何であるか、そしてどのようにしてそこに住めるか見つけ出そうと……」 what Mars is で文が切れると思った。① like の用法が不明。③

(c) We can live there という文が一つにまとまっていると思った。① (火星が何でどのようなものか見つけ出そうとしている。そして我々はそこに住

むことができます)

8. We swam after lunch before the sun set
 $\overset{\wedge}{1}$ $\overset{\wedge}{60}$ $\overset{\wedge}{2}$
 we went back to the hut. (B)
 $\overset{\wedge}{70(a)}$

正答率 45.1%

誤答例(a)「昼食後そして日没前に泳いだ」と考えた。絶対にまちがいだとはいきれない面もあるが何故70人もそこを解答したか。

We went back to the hut という文のまとまり。①

We swam + We went と考え、前についている副詞節については深く考えなかった。②

○誤答(a)のもの10人に次の文で、後日再テストを行なったところ全員正解であった。

We swam after lunch we went back to the hut
 $\overset{\wedge}{10}$
 before the sun set.

9. The old man was so angry excited that
 $\overset{\wedge}{128}$ $\overset{\wedge}{1(a)}$ $\overset{\wedge}{2(b)}$
 didn't talk to him any more. (A)
 $\overset{\wedge}{2}$

正答率 96.2%

誤答例(a) (b)共に that を無視すると文の切れ目となる。①

10. I met a girl white as snow prettier than
 $\overset{\wedge}{21(a)}$ $\overset{\wedge}{100}$ $\overset{\wedge}{3}$
 a doll. (A + α)
 正答率 82.7%

誤答例(a) I met a girl のまとまりで文が切れると思った。①

意味はとれたが入れるところがなく、そこで文が切れていると思った。①②

「少女と真白な雪を見た」と考えた。(a girl + white as snow) ③ as の用法がわからない。④ and は入れたが無視して訳を考えた。

(b)「ホワイトという女の子にあった。そして……」と考えた。(as を接続詞だと思い、そこが文の切れ目だと思った) ①③

11. More and more people talk about the prob-
 $\overset{\wedge}{1}$
 lems of cities of the people who live in
 $\overset{\wedge}{1}$ $\overset{\wedge}{3(a)}$ $\overset{\wedge}{113}$ $\overset{\wedge}{1}$ $\overset{\wedge}{14(b)}$
 them. (Aph)

正答率 82.7%

誤答例(a) cities of the people とまとまっていて前の of は talk から続いていると思った。

(b) the problems of cities of the people + who live in them と考え、そこが文の切れ目だ

と思った。①

12. In this story an Englishman tells us about the
 $\overset{\wedge}{1}$
 winter there about how people live in the
 $\overset{\wedge}{21(a)}$ $\overset{\wedge}{109}$ $\overset{\wedge}{2}$
 coldest season. (Adph)

正答率 82.0%

誤答例(a) about the winter で文が切れると思った。①

there が後ろにかかると思った。(冬と人々のそこでの生活について)

Aの問題は、構文さえしっかり把握すれば正解できるのだが、誤答を出した生徒はやはり、文を平面的にしか見ず、切れのよいところで区切り and を入れ、それ以後の文については前からの続きを考えずに、勝手に意味をとってしまうようである。

B. 訳す問題 44人分析 (構文としての考え方さえあっていれば正解とした。)

1. go to America + study English と正しく考えたもの 42 (95.5%) (Vi)

誤答例(a) wanted + studied のように考えたもの 2 (彼はアメリカへ行きたかったので、英語の勉強をした) ⑤

2. many friends + few people と正しく考えたもの 38 (86.4%) ($\overset{a}{b}N\overset{c}{d}$)

誤答例(a) 文+文と考えたもの 3 (彼は手伝うたくさんの友を持っている。そしてほとんどの人は思い悩まない) ①

(b) help (him + few people) to worry about と考えたもの 2

(思い悩む彼と人々を助けてくれる多くの友を持っている) ② 近くにあるもの同士を安易に結んでしまった。

(c) many friends to help (him + few people to worry about) と考えたもの 1

(b) (c)の誤答においては many friends と few people の間に help という動詞があるために、誤りが誘発されたと考えられる。

3. 文+文と正しく考えたもの 5 (11.4%) (B)

誤答例(a) (art + the works) と考えたもの 37 ⑥+⑦

(a₁) (art and the works) of (Greeks and Romans) remained under.... remain の主語が Greeks and Romans と考え、Greeks and Romans という形の上での結びつきにとらわれ、of を無視、又は、関係詞のように考えたもの 9 (誰もギリシャ人とローマ人が……の下に残した美術や作品に) ⑥+⑦

- (a₂) [(art and the works) of (Greek and Romans)] remained under..... 9 (……の下に残されたギリシャ人やローマ人の美術や作品に) ㊸+㊹
- (a₃) remained の意味がわからず、形として art + the works, Greeks + Romans を結びつけた。13 ㊸+㊹+㊺
- (a₄) (art) + (the works of Greeks and Romans remained under.....) (美術とギリシャ人とローマ人が……の下に残した作品) 3
- (a₅) (art) + (the works of Greeks) and Romans remained under..... (美術やギリシャ人の作品には興味を持たず、ローマ人は……の下に残っていた) 1
- (a₆) (art + the works) of Greeks / and Romans remained under..... (誰もギリシャ人の美術や作品には興味をもたなかった。そしてローマ人は……) 2
- 84%の生徒が art + the works という形に着目している。その発想はよいのだが、the art and the works 又は、the art and the worksとなぜなっていないかとまでは考えが及ばない。
- (b) 全くわからないもの 2
4. 文+文(I thought + I went) と正しく考えたもの 36 (81.8%)
- 誤答例 (a) I thought (perhaps he was..... sick + after..... for a while) と考えたもの 6 (たぶん少し具合が悪くて外出したと思った)
- (b) I thought perhaps he was a little sick after giving.....と after の前の and を無視して訳したもの 1 ㊸ (彼はカプセルを与えた後で病気になったと思った)
- (c) 全くわからない 1
5. 構文的には全員正しく考えていた。100%
6. 前半3つの and に関して 正答率 35 (79.5%)
- 誤答例 (a) 「男は仕事にでかけ、そして家庭や家族は西部に行った。」 6 ㊸
- ㊸最初の and の前で文を切ってしまう。
- ㊹三回目の and を無視している。㊸
- (b) 分析不能 3
- 後半(最後の and) に関して 正答率 18(40.9%)
- 誤答例 (a) 「百万長者になるために金を探して」
- ㊸ and を無視して不定詞を searching にかけた。17
- (b) 「金を探しに西部に行き、百万長者になりました」
- ㊸㊹ and を無視、あるいはあるためにかえて不定詞を結果的に考えた。6
- (c) 「金を探している西部へ百万長者になり」
- ㊸ to the west + to become と考えた。1
- (d) 分析不能 2
7. 前置詞+前置詞と正しく考えたもの。19 (43.2%)

- 誤答例 (a) ㊸ in + around の一方の無視(特に in) 23
- (b) ㊸ 「中と(どこの中と書いていない)村のまわりと国のどこか。」文を平面的に前から訳しただけのもの 1
- (c) 「その国やその村やどこか他の場所の中やそのまわりで」 in and around を後全体にかけ、in the country の in を and のように解した。2
- (d) 「その国のどこか他の場所で見つかった」
- ㊸ and を完全に無視している。1

以上のテスト分析結果から誤答分析表をつくってみた。

◎誤答分析表

- ㊸文と文をつなぐ and を意識しすぎている。
- ある一つのかたまりで意味をとると、それを分離して、次のかたまりへと移行してしまう。
- 前半の意味がわからない場合は、後に文のかたまりを見つけ、その前で区切ってしまう。
- A: 1a, 4a, 7a,b,c, 9, 10a,b, 11b, 12a,
B: 2a, 6 前半, 7b,
- ㊹意味を考えずに不用意に形だけを見てしまう。
- A: 1b, 4b, 8a, B: 3a, 6 後半c
- ㊺準動詞の働きを考えず、前のまとまりで区切ってそれを述語動詞のように解してしまう。又本来動詞でないものまで、述語動詞のように解してしまう。(㊸と通じている)
- A: 4c, 5a, B: 1, 3b, 6 前半
- ㊻㊼ 単語の意味(㊻)用法(㊼)がわからないために、構文をも大きく誤ってしまう。
- A: 5a, 8a,
- ㊽後置修飾を意識しすぎて、不用意に後ろから修飾してしまう。
- A: 5a, 8a,
- ㊾授業で and を訳さずに文を日本語に直す場合が多いので、構文上でも and を無視してしまい、大きな誤りを誘発する。特に文+文にとってしまいがちとなり㊸と通じている。
- A: 4d, 10a, その他入れなくても意味が通じるという理由で、いいかげんに入れたものすべて。
B: 6 前半b, 後半a,b, 7a, d,
- ㊿単語+単語という最も簡単な結びつきを意識しすぎていて、一番近いもの同士を不用意に結んでしまう。
- B: 2b, 3a

これらの誤答への誘因がいくつかからみあって、生徒は and の結んでいるものが発見できず、そのために一番大切な構文を見失ってしまう。もちろん構文をし

っかり把握して、文を正しく理解すれば、おのずから **and** の結んでいるものもわかるのであるが、逆に **and** の働きを正確に理解させることにより、複雑な文の構文を把握するステップにしたいと考えるのである。

3 今後の課題

以上のようにして **and** に関しては生徒の理解状況が

大体つかめ、指導用例文集ができあがったので、今後これをもとに系統的指導を試みたいと考えている。又 **and** は生徒のつまづきの分析の第一歩でしかなく、今後、**or** や **but** 又それ以外のつまづきの要素についても分析、指導の工夫ができたらと思っている。それに対して御意見、御指導を承れたら幸いである。

(山田 雄一)

〔Ⅱ〕 入門期における日英語のずれに着目した指導例

1. 基本的な着眼点

学校教育における英語教育の本質的な姿を追求する場合には、学習者の側に立った動的なとらえ方が欠かせない。大脳生理学がすでに明らかにしているように、いわゆる〈言語習得の臨界期〉というものがあり、10代の初期を境にして、新しい言語が大脳皮質に定着するための生物学的諸資質は柔軟性を失ってしまう。これは、言い換えれば、母国語が子供の大脳においてどっしりと根をおろし、母国語による理論的な思考や抽象的なものとのとらえ方がいよいよ発展してゆくということでもある。学習者の側に立った動的なとらえ方は、このような生徒の言語能力の発達段階を考慮しながら、生徒の人間的な成長に働きかけうる教育の営みとして英語教育を考えてゆこうとするものである。母国語を使用しない英語教授法が提唱されてから久しいが、この立場からは、むしろ、生徒の母国語である日本語を積極的に評価し、生かそうとする。

このような立場に立って、この実践は、まず

(1) 英語教育を〈異質なもの〉の出合いの場

とみなすことから出発した。つまり、音韻面・文法面・語彙面など様々のレベルで相異なる日本語と英語という異質な言語体系のおつかり合い、さらに、その言語体系といくえにもからみあっている日本文化と英米文化のおつかり合いに焦点をあてたのである。〈日英語のずれ〉を意識させることは、生徒の言語感覚を鋭くすることにもつながってゆき、〈ずれ〉を発見するという学習は1つの重要な動機づけともなる。

また、この実践は、〈異質なもの〉への着目が

(2) 生徒の英語学習上のつまづきを解決することにつながる

という仮説的な期待によって支えられている。〈異質

なもの〉を単に意識しただけでは、知識として「日英語の差」を項目的におぼえこむ学習と大差がない。言語の教育としては、いったん英語の世界に入ったら、どこまでも英語の言語体系に働いている論理の流れに沿って英語が運用できることを目指さなくてはならない。そのことによって、言語運用面への効果を期待できると考えたのである。

この実践は、いままでに数多くの英語教師が試みてきたことと大きな差はない。また、新しい教授法を開発したわけでもない。ただ、上述したような問題意識を教師が抱き、そのような指導の下で、生徒たちが〈異質なもの〉を学習することの楽しさを感じるような機会をできるだけ多く与えているということなのである。

2. 基礎的研究

日本語と英語の出合いに焦点を合わせようとする立場からは、日英語の比較研究が必要となる。昨年度、日本人が英語を学習する際の困難点として出てくる日英語の相異点を、英語からながめた日本語の特質として、やや系統的に調べてみた。その結果を本校研究紀要第22集に発表したもので、参照していただきたい。

3. 中学1年生に対する指導の構想

学校教育の場で初めて英語に出合う中学1年生は、〈異質なもの〉の出合いをねらった実践に最もふさわしい学年である。そこで、宮田が中1を担当することになった時点で、次のようなことを念頭に置いて、系統的な指導を計画してみた。

ア) 英語の発音・語彙・語法・文構造を学習する過程で、なるべく日本語と比較させる。

イ) 日本語を英語に、英語を日本語にという「一対一の対応」に陥りやすい学習を排除して、自然な